

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇学習などについてのアンケートから「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている」子が多く、協働で学ぶ意識が高い。</p> <p>◇「自分で計画を立てて勉強している」の数値が比較的高く、これまで取り組んできた家庭学習の習慣の確立が実を結んできている。</p>
	<p>◇学習などについてのアンケートから「新しく学んだことを、ほかの学習や生活の場面で使おうとしている」の数値が低く、学びを活用するのが苦手であるという実態がある。</p> <p>◇「自分の考えを進んで発言しようとしている」の数値が低い。昨年度よりもポイントが低くなり、学年が上がるにつれて低くなる傾向がある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇アンケートでは「自分が必要とされていると感じる」の数値が低い。しかし、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の数値がとても高く自己承認できている傾向がある。引き続き、自分に自信をもてる場を設定していくとともに、他者を受け入れること、認めることへの価値付けが重要となる。</p>

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

友達との学びを楽しみ、聞きたい・伝えたい・やってみたいと思いをもち学び進めること

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究の重点「教材や友達に主体的にかかわり、受信力・発信力が高まる授業」に基づき、各学年の授業交流ができる機会を設定する。</p> <p>(2) 単元全体を通して、子どもが持続的な課題意識をもち、学び進めることができる構成にし、授業を構築する。</p> <p>(3) 「考える時間」「考えを共有する時間」「討論する時間」を明確に設定し、授業の中に安定した学びのリズムを作る。</p> <p>(4) AAR サイクルを単元や題材に位置付けて構成することで、子ども一人一人の主体性を大切にしながら多様な学びを目指す。</p>	<p>① 共感できる学級・学年にするために話し合い活動の充実 →様々な課題を議題にした学級会等の実施 意見交流の場面の適切な設定</p> <p>② 友達と協力して学び、友達のよさを認める子の育成 →ふれあい活動を活用し、異学年の中で友達と協力して活動し学び合いや認め合いの場面を設定する。</p> <p>③ 自治的な取組が広がる委員会活動 →児童一人一人が、学校をよりよくしていこうという意識をもち児童の意見を取り入れ、学校生活を改善できる活動の充実。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇主に(3)や③について、子どもたちが自分の考えを発信し、それを受信、そして共有できるツールを使うことで学ぶ力の育成を図る。また、そのツールにおいて、事前指導の機会を設ける。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>



